

沖繩作戰  
ニ於ケル

海上挺進基地第三大隊史實資料

昭和二十二年三月二十五日  
第三十三軍務整理部

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

部隊統制ノ概要

昭和十九年七月九日

一令 青一白

一令 青一白

一令 青一白

昭和二十年二月十七日

動員下令

動員完結

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

昭和二十年三月二十日

一令

三三三

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣



11 五月七日新美曹長以下二七名、新込隊ヲ整理客件西部落  
ニ派遣シ翌八日未明ニ返還セリ

戦果 人負殺傷 約一〇〇名

女軍損害 未詳

12 五月十日敵隊兵士等、大塚等吾が第一線ニ攻出シ来リ概十  
一日迄ニ第一線中隊ノ主力潰滅セリ

13 五月十日第二次新込隊將校以下士官二名(三名)ナリ安謝  
部着所迄ニ派遣

戦果 幕舎燬破 一  
我が方ノ損害 ナシ

14 五月十日一十番 天久泊附近ノ戦斗  
大隊長戦死 本部主力全滅

五月十日本部残存ノ全員新込散行ス  
戦果 自動貨車八台、機関車台、燬破、機関砲二

鹵獲 其ノ他自動貨車一、搭載セル兵器多数ニ上ル

我が方損害 戦傷一

天久陣地ハ新美防上ノ要衝ニシテ旅團トシテハ如何ナ  
ル犠牲モ顧ミズ之ヲ確保ス期セシ為、十日敵隊来后

十五日迄戦斗セリ

十五日新込戦斗ニ至リテ十日ヨリ十番ニ至ル戦斗ニ付シ旅團  
眼ヨリ賞詞ヲ受ケリ

15 五月十日同日三連ル間起爆ノ如ク押寄スル海兵七師ノ精銳ヲ  
第一中隊ハ、初陣地第一中隊ハ、松川、諸君ニテ散斗ス

五月十九日第一中隊隊長戦死

五月二十日、内松川、諸君、第一中隊隊長以下健力守名  
五月二十日、内松川、諸君、第一中隊隊長以下健力守名

為后ノ其力ニ依リ根拠ヲ失脱シ、大塚ヲ援テ旅團ニ厚  
文仁方面へ、退避ニ受託セリ、組織損害不明

16. 中野部存在者ハ初混十五那隊号是糧秣輸送班ニ付  
17. 軍主力摩又仁三駒道后第ニ中隊ハ初混才五那隊左第ニ線ト  
ニテ安里附近ニ第ニ中隊ハ右第ニ線トシテ目志頭附近  
ニテ第ニ中隊ハ右第ニ線トシテ目志頭附近  
18. 之月十日初混四那隊ノ首里防上ノ戦斗ノ功ニ依リ軍司  
令官ヨリ感狀授与セラルレ全配属各部隊トシテ感狀ヲ  
授与セラルレ残存者ニ伝達ス

(感狀寫真初混四那隊ノモノニ付)

球一六七八九

合遣隊長  
代理陸軍大尉  
宮嶋光二郎

大島 知海 大隊  
心輪 隊  
加島 知海 大隊

第 一 〇 六 七

海上越進基地第一大隊(隊第一二七八九部隊)  
阿嘉島分遣隊並配屬部隊(獨立水兵勤務隊)  
戰鬥 經過

於阿嘉島  
一部慶留島

昭和二十年二月十日軍令依リ海上越進基地第一大隊八  
部隊長古賀大佐以下部隊大部八一部(勤務中隊)整  
備中隊本部要員一部ヲ殘シ沖繩本島ニ転進ス  
新大島初之水兵勤務中隊(一隊)ヲ配屬ス

兵 員  
將校 一〇(分遣隊長庄田大尉 藤瀬中尉)  
陸士下官以下 二三四  
配屬部隊  
將校 二

下士官以下一九

軍夫約三百名

敵軍の隊を三つに別す力に阿蘇岳麓の一部に慶留岡島(下)  
二能直之進(地這隊隊若天隊、出陣準備完了)並  
舟艇を準備し水車準備並防備設備(進進)又

戦斗概要

三月二十四日

三月三日、六、五、空襲警報発令、  
以て隊務延約、4時未だ襲

成る損害、隊隊用舟艇三隻損傷

宿舎糧秣庫若干炎上

三月四日、言、附近洋上三敵大機動部隊発見

三月五日、敵艦隻襲撃

拂曉より附近島嶼を巡り、慶留岡島に敵艦砲  
及空襲攻撃あり

敵艦

巡洋艦 一 駆逐艦 一三

三月三日

一掃曉敵艦砲及砲撃被撃後、下水陸揚昇車ヲ併セ

上陸開始ス我方直下ニテ大針 出セル処ニテ、島ヲ既

備シキヤ野ヲシシ今島ヲ守ル

二慶留岡島守備隊、大部合度、潮口ル被撃

三夜間全員、薪、並ニ水、敵行ヲ準備ス

敵兵力

阿蘇岳麓約八〇、休田〇以上

慶留岡島約五〇、水ニ〇以上

我方損害

戦死者二、員傷者若干

敵ニ與ヘタル損害

概不台教

二十七日

一、零時ヲ期シ總員新シク敵ヲ復引續キ其基地隊及既屬部隊ヲ以テ舟艇泛水準備完了セルモ敵隊未退カズ總員明ニテ中止ス

二、度留間島ノ一部生存者ハ敵隊下協力泛水敵行シ〇四〇頃敵隊中隊長以下ヲ击退成功セシム

(善動橋官 中村少尉以下若干名)

三、我方ノ損失

整備中隊長(鈴木大尉)以下一六戦死

敵方損害

二十七日

終日至烈ナル艦砲及空襲ヲ受リ

夜間敵ハ我ヲ敵行シ敵ヲ遠退シ泛水準備ヲイテ舟艇損傷及泛水路破壊者々困難ナリシハ未退隊止ス

今日以後ノ概要

一、八日以後約十日間敵ハ連日同調的ニ艦砲攻撃ヲ行シ下三兵力ヲ上陸セシメ未退セルモ常ニ退却同島ヲ死守ス敵常ニ海上退却スルヲ常態トシ攻撃ノ方法ヲ吾方極力損害ヲ回避スル方針ヲ以テ同島ノ促進セルヲ

雨未損害極少トナル

二、四月上旬以後ノ概要  
敵ハ既述ノ如ク中線本島攻撃隊ノ如ク地上艦砲並ニ艦砲及水上艦艇ヲ以テ阿蘇島ヲ身ヲ海峯ニ監視並ニ艦砲射撃ヲ断續的ニ行ハス外直接未攻ノ算ナシトナル  
我方ハ不時ニ敵攻撃ニ備ヘルト共ニ自活持久戦ヲ行シ終戦ニ至ル迄古クノ全員糧食極度ノ不足ニ堪ヘ刻苦敢死ス



八月十二日

市面潜伏のル旨、敵ヨリ、通報ヲ受リ

八月十一日

陣線本島残存最高指揮官ヨリ、命令受領

八月十三日

敵側ヨリ、武器解除ヲ受リ

我方損害

戦死将校 五

下士官以下 六五

配属部隊

下士官以下 一〇

軍夫約 五〇

所見

基礎隊任務、性質上、準備、全ク命令額加之精銳主力ハ

本島山嶽戦シニ主体ハ配属軍夫ヲ以テ任務遂行セザル  
ベカラサルニ至ル

但シ敵未だ退スルヤ然レハ困難ヲ克服シ野隊本島ノ主  
任務完遂ニ功セシモ野隊主力、お退ヲ見ザルハ突ニ急進  
ナルモ慶留向令遣ノ中村中尉以下生存者ハ其ノ最隊  
令遣隊長ト協力シ、敵ヲ追ハシ、其ノ功セシタル功績ハ、大  
ナリ、お退ヲ成功シ、其ノ功績ヲ嘆息シ、極度ノ糧秣不足、  
服シ失調死ヲ続キ、お退シタルモ、其ノ戦友愛ト一致協力ハ  
最期迄、本島ヲ死守ス